

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年1月12日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.80】

松崎氏の別荘購入資金をめぐる説明の疑問は尽きない！

松崎氏の沖縄の別荘購入の資金の問題について、本号より、同氏の主張を検証したい。引き続き「週刊現代裁判」での反対尋問・主尋問における松崎氏の証言を紹介する。

(被告代理人)アンジェイ・ワイダさん、あるいはその日本関係のものに対して寄附されたのはいつ頃なんですか。(松崎)10周年記念に行ってきたんですから、今から15年くらい前ですかね、よく覚えていませんが。(代理人)1992年11月の毎日新聞に、JR東労組委員長の松崎さんがポーランドの日本美術館建設のため埼玉県東松山市の自宅を売却して寄附したという記事がありますが、これのことですか。(松崎)そう思います。(代理人)92年の秋頃。(松崎)ああ、そうですかね。(代理人)そう言われればそんなものかということですか。(松崎)はい。(代理人)このとき、あなたご自身はいくら寄附したんですか。(松崎)5,000万円くらいじゃないでしょうか。

(原告代理人)あなたが購入したり、あるいは使用している不動産は、組合費を私的に流用することで取得してきたように繰り返し述べられていますけれども、全くでたらめですか。(松崎)とんでもないでたらめです。(代理人)ところで、あなたは挙げられているような不動産を取得できるような資産は持っていたんですか。(松崎)はい。(代理人)恐縮ですけども、どんな資産をお持ちだったかちょっと紹介していただけますか。(松崎)まあ、一つは親からいただいた土地ですね。-(中略)-(代理人)それ以外にどんな資産があったんですか。(松崎)それ以外には、株券の売却ですとか、もちろん給料はありますし、それから講演料、それから本の著作権の印税などですね。(代理人)先ほど出た沖縄の今帰仁村の不動産、これもあなたの資産から取得したものなんですか。(松崎)その通りです。(代理人)具体的な原資は何だったんでしょうか。(松崎)これは、ポーランドに対する寄附をして、松崎だけにそうさせるわけにはいかないというので多くの仲間の皆さんがそれを補填してくれたんですね。最高では1人500万という金を入れてくれた方もいますし、100万円単位の人もたくさんいましたし、そういう金などだと思います。(代理人)そうすると、先ほど言われたアンジェイ・ワイダさんの日本美術・技術センター、これはあなたが私財を投入したと、5,000万円くらい。(松崎)はい。(代理人)あなただけに負担させるわけにはいかないというふうになったんですか。(松崎)そうです。(代理人)で、皆さんが補填をして、あなたが出したものを返してくれたということなんですか。(松崎)はい。それを東労組の通帳で預かってもらったようです。そこから当然、出したということになりますね。(代理人)それは、カンパと言われていたものですか。(松崎)そうですね。(代理人)それと、あなたの先ほど言われた土地を売却した代金、そういうものを合わせて今帰仁の土地を買ったり建物を建築したりしたんですか。(松崎)そうです。

5,000万円の寄附を仲間のカンパで補填？！

この松崎氏の説明に納得できるだろうか。松崎氏は、ポーランドに寄附した5,000万円を補填した仲間のカンパを東労組の通帳で預かってもらい、その資金で私的に沖縄の土地を購入し別荘を建てたというのだ。自発的な寄附を「補填」してもらおうという理屈もおかしいだろうか。それならば贈与税の対象にはならないのか。なぜ東労組の通帳で預かることになるのか。これは本当に松崎氏の資金だと言えるのか。疑問は尽きない！